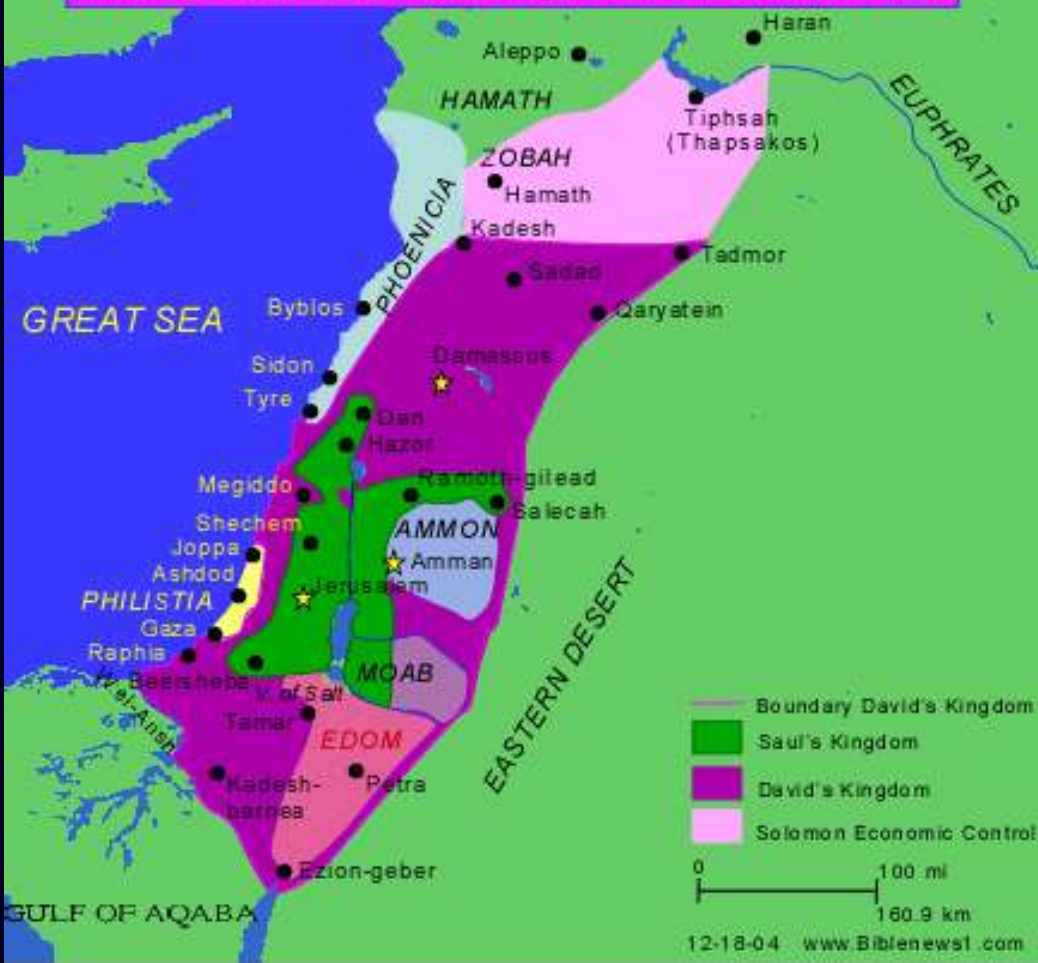


繁栄の高慢心

KINGDOMS OF DAVID, SOLOMON, SAUL



「ソロモンはユフラテ川からペリシテびとの地と、エジプトの境に至るまでの諸国を治めた」。「彼は……周囲至る所に平安を得た。ソロモンの一生の間、ユダとイスラエルは……安らかにのおの自分たちのぶどうの木の下と、いちじくの木の下に住んだ」(列王紀上 4:21、24、25)。

しかし、彼の生涯は大いなる約束に輝く朝が過ぎた時に、背教によって暗くなった。

主の礼拝を捨てて異教徒の偶像の前にひざまずいたのである。

申命記17:14 あなたの神、主が賜わる地に行き、それを獲てそこに住むようになる時、もしあなたが『わたしも**周囲のすべての国びとのように、わたしの上に王を立てよう**』と言うならば、

17:15 必ずあなたの神、主が**選ばれる者を、あなたの上に立てて王としなければならない**。同胞のひとり、あなたの上に立てて王としなければならない。同胞でない外国人をあなたの上に立ててはならない。

申命記17:16 王となる人は自分のために馬を多く獲ようとしてはならない。また馬を多く獲るために民をエジプトに帰らせてはならない。主はあなたがたにむかって、『この後かさねてこの道に帰ってはならない』と仰せられたからである。

17:17 また妻を多く持って心を、迷わしてはならない。また自分のために金銀を多くたくわえてはならない。

17:18 彼が国の王位につくようになったら、レビびとである祭司の保管する書物から、この**律法の写しを一つの書物に書きしるさせ、**

17:19 世に生きながらえる日の間、**常に**それを自分のもとに置いて**読み、**こうしてその神、**主を恐れることを学び、**この律法のすべての言葉と、これらの定めとを守って行わなければならない。

17:20 そうすれば彼の心が**同胞を見くだして、**
高ぶることなく、また**戒めを離れて、**右にも左
にも**曲ることなく、**その子孫と共にイスラエル
において、長くその位にとどまることができる
であろう。

	ダビデ王	氏族長、部族長、千人の長、百人の長、工事をつかさどる者たち	計
金	約100トン	約170トンと約84kg	約270トンと約84kg
銀	約240トン	約345トン	約585トン
青銅		約610トン	約610トン
鉄		約3,450トン	約3,450トン

ソロモンはイスラエルの南に位する強力な王国との関係を強化しようとして、禁じられた所に足をふみいれた。



王上3:1
「ソロモン王は
エジプトの王
パロと縁を結
び、パロの娘
をめとってダビ
デの町に連れ
てき」た。

この結婚は律法に反していたが 一見祝福に思われた その1



なぜならばソロモンの異教徒の妻は改心して、彼に加わって真の神の礼拝をしたからである。

この結婚は律法に反していたが 一見祝福に思われた その2

王上9:16 (エジプトの王パロはかつて上っ
てきて、ゲゼルを取り、火でこれを焼き、
その町に住んでいたカナンびとを殺し、こ
れをソロモンの妻である自分の娘に与えて
婚姻の贈り物とした . . .

心の傾向が理性よりも優勢になり、自己を過信するようになったとき、彼は主のみこころを自分自身の方法で行おうとした。

彼は周囲の国々と政治的、通商的同盟を結ぶことは、これらの国々に**真の神の知識**を伝えることであると判断した。

致命的な自己過信

ソロモンが、①自分は異教徒の影響に十分抵抗できると誤って判断したことは、致命的であった。また、②自分は神の律法を無視したとしても、他の人々はその聖なる戒めを尊んで従うだろうという希望を彼に抱かせた欺瞞(ぎまん)もまた、致命的なものであった。

歴代誌下1:15

王は銀と金を石のようにエルサレムに多くし、香柏を平野のいちじく桑のように多くした。

王は外面的虚飾において他の国々
をしのごうという圧倒的野望に心を奪
われて、品性の美と完全を得ることの
必要を見過ごした。

彼は、最も賢明で最も恵み深
かった王から、暴君に墮落してし
まった。

歴代誌下1:17

彼らはエジプトから戦車一両を銀六百シケルで輸入し、馬一頭を銀百五十で輸入した。同じようにこれらのものが彼らによってヘテびとのすべての王たち、およびスリヤの王たちにも輸出された。

歴代誌下 9:28

また人々はエジプトおよび諸国から馬をソロモンのために輸入した。

王上10:26 ソロモンは戦車と騎兵とを集めたが、戦車一千四百両、騎兵一万二千あった。ソロモンはこれを戦車の町とエルサレムの王のもとに置いた。

列王紀上 11:4, 5

ソロモンが年老いた時、その妻たちが彼の心を転じて他の神々に従わせたので、彼の心は父ダビデの心のように、その神、主に真実でなかった。これはソロモンがシドンびとの女神アシタロテに従い、アンモンびとの神である憎むべき者ミルコムに従ったからである。

列王紀上

11:7 そしてソロモンはモアブの神である憎むべき者ケモシのために、またアンモンの人々の神である憎むべき者モレクのためにエルサレムの東の山に高き所を築いた。

11:8 彼はまた外国のすべての妻たちのためにもそうしたので、彼女たちはその神々に香をたき、犠牲をささげた。

彼は神への忠誠を捨て去った時に、自分自身を統御することができなくなった。彼の道徳的力はなくなった。…その治世の初期において、大いなる知恵と同情をもって、無力な赤子をその不幸な母親に取りもどした彼が(王上 3:16-28参照)、はなはだしく墮落して、**生きた子供を犠牲として献げる**偶像の建立に同意するに至った。

箴言14:12

人が見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある。

王上8:61

それゆえ、あなたがたは、今日のようにわれわれの神、主に対して、心は全く真実であり、主の定めに従い、主の戒めを守らなければならない」。

神は、自分たちが神に依存していることを感じなくなった人々のためには、ほとんど何もおできにならない

神は無限の配慮をもって、神の子供たちを常に守っておられる。しかし、神はわれわれが一心をもって忠誠をつくすことをお求めになる。

マタイ 6:24

だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

神がソロモンに危険の警告をお与えになったのと同じように、今日も、世と親しんで、魂を危険に陥れないように神の民に警告を発しておられるのである

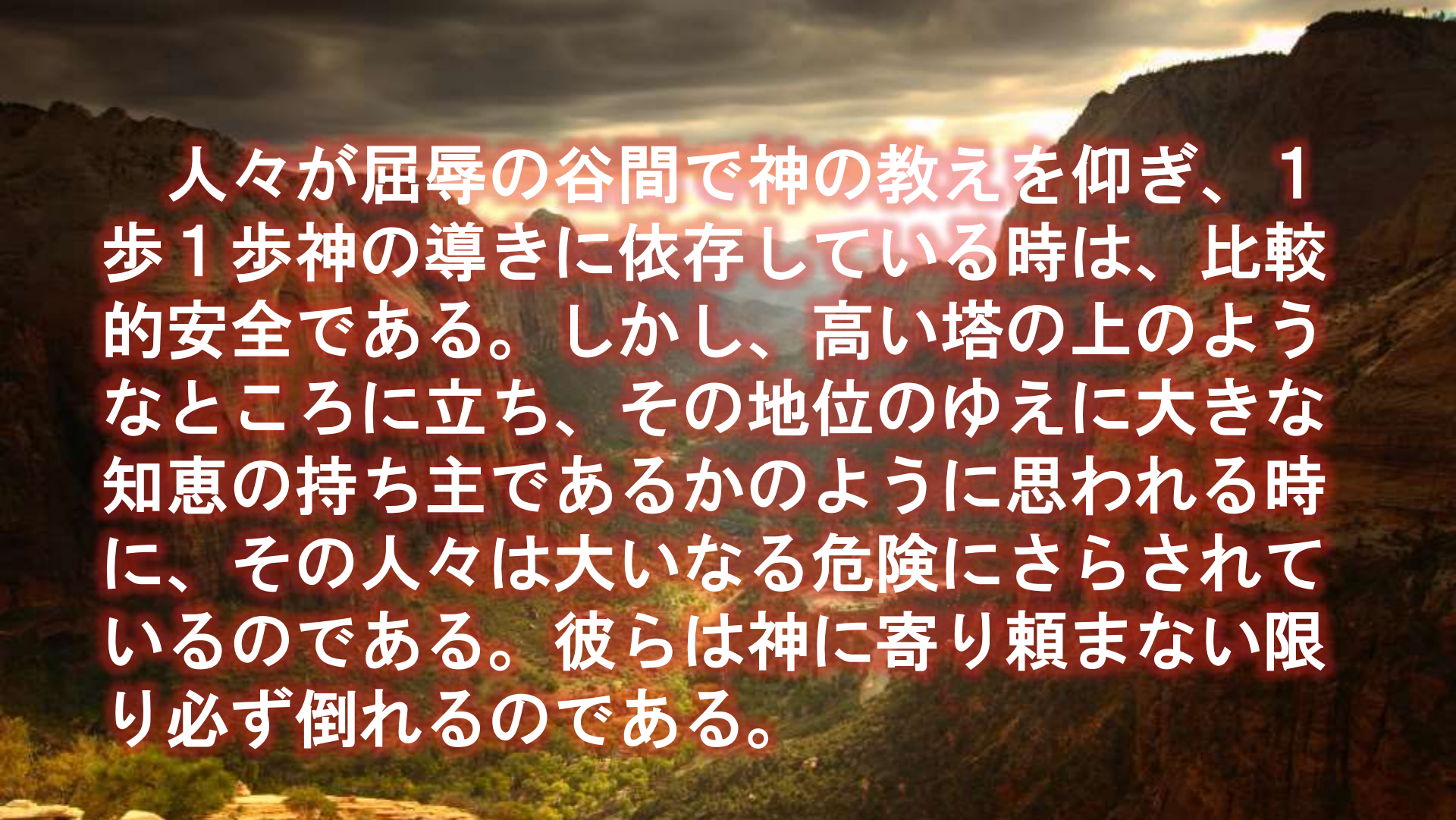
Ⅱコリント 6:17、18

彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、……汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。

繁栄のただ中に危険が潜んでいた。いつの時代においても、富と栄誉には、謙遜と靈性を失う危険が伴っていたのである

運ぶのが難しいのは空のコップ
ではない。注意深くバランスを保
たなければならないのは、ふちま
で満たされたコップである。

苦難と逆境は悲しみをもたらすであろうが、靈的生活に最も危険なのは繁栄である。人間は常に神のみこころに従い、真理によって清められているのでなければ、繁栄の時に、生まれながら持っている自己信頼の傾向が必ず出てくるものである。

A dramatic landscape with a sunburst effect breaking through a valley between mountains. The sun is low on the horizon, creating a bright glow and long shadows across the terrain. The mountains are dark and silhouetted against the bright sky. The overall mood is one of awe and divine presence.

人々が屈辱の谷間で神の教えを仰ぎ、1歩1歩神の導きに依存している時は、比較的安全である。しかし、高い塔の上のようなところに立ち、その地位のゆえに大きな知恵の持ち主であるかのように思われる時に、その人々は大いなる危険にさらされているのである。彼らは神に寄り頼まない限り必ず倒れるのである。

誇りと野心を抱くときに、人は人生において必ず失敗する。というのは、**誇りは必要を感じない**ので、天の無限の祝福に対して心を閉ざしてしまうからである。

救い主は恵みを静かに注ぎ、魂から不安と汚れた野心を追放し、敵意を愛に変え、不信を確信に変えて下さるのである。彼が人に向かって「わたしについてきなさい」と言われる時に、世俗の魅惑的魔力はその力を失ってしまうのである。彼の声の響きとともに、貪欲心と野心は心から逃げ去って、人々は解放されて立ち上がり、彼に従うのである。

大下179、180

神は、神の声を聞いて従う者、必要ならば俗受けのしない真理を語る者、広く行なわれている罪を譴責することを恐れない者を用いて働かれる。神が、学者や高い地位にある人々を選んで改革運動の指導者になさらないのは、彼らが、自分たちの信条、理論、神学体系などに頼って、神に教えられることの必要を感じないからである。

大下180

知恵の根源である神と個人的につながっている者だけが、聖書を理解し説明することができる。学校教育をわずかしか受けていない人々が、真理を宣言するために召されることがあるが、それは彼らが無学であるためではなくて、自分に頼らずに神から教えを受けるからである。彼らは、キリストの学校で学び、その謙遜と服従が、彼らを偉大にするのである。神は彼らに、神の真理の知識をゆだねて、彼らに栄誉をお与えになる。それに比べるならば、地上の栄誉や人間的偉大さは、とるに足りないものなのである。